

平成30年度 学校自己評価システムシート (県立本庄高等学校 定時制課程)

目指す学校像	生徒一人ひとりを大切に、知・徳・体の調和のとれた教育を行う。
--------	--------------------------------

重点目標	1 「わかる授業」に向けた授業改善と学習環境の整備による基礎学力の向上 2 進路意識の高揚とスキルの向上による進路指導の充実 3 家庭との連携や日常の生徒指導を通じた基本的生活習慣の確立 4 保護者・地域との連携強化による学校教育力の向上
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					年 度 評 価 (月 日 現 在)		
年 度 目 標					評 価 項 目 の 達 成 状 況	達 成 度	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標			
1	多様な生徒が在籍しており、学習意欲や習熟度、日本語会話力に著しい差がある。一人一人が「わかる授業」を実践するために、日々の授業改善と学習環境の整備が必要である。	「わかる授業」の実践に向けた授業改善に取り組む。	①生徒の実態に応じた習熟度別授業の工夫や学習サポーターの活用等により「わかる授業」の実践につなげる。 ②授業アンケートと教職員研修会を実施し授業改善に生かす。	①習熟度別授業の工夫した取り組みを実施し、「わかる授業」につなげられたか。 ②授業アンケートの分析と教職員研修会を実施できたか。			
		多様な生徒のニーズに応じた学習支援策を構築する。	①日本語会話に課題がある生徒への多文化共生推進員を活用した学習支援を行う。 ②家庭での学習時間の確保が難しく成績不良な生徒に対し、自学できる環境を整備し、学力向上につなげる。	①対象生徒への支援の提供とそれによる日本語会話力の向上につながったか。 ②成績不良な生徒の学力向上と欠点保有生徒数の減少に繋がったか。			
2	社会人としての必要なスキルが身についておらず、卒業後の進路についても具体的な目標が描けない生徒が多い。早い時期からのキャリア教育と社会人基礎力の向上、更に具体的な進路選択とその実現への適切な支援が必要である。	県支援事業を「社会人育成講座」として活用したキャリア教育を行う。	①SST や心理テスト、社会体験活動等を行い進路意識とスキル向上を図る。 ②資格取得への挑戦なども計画的に支援する。	①「社会人育成講座」等による生徒の変容が見られたか。 ②資格、検定試験に取り組む生徒が増加したか。			
		進路希望の実現を図るための適切な支援に取り組む。	①生徒一人一人の適切な進路選択に向けた支援を行う。 ②就職支援アドバイザーを活用して、生徒の進路実現にはかる。	①生徒一人一人に応じた進路相談体制を構築できたか。 ②就職支援アドバイザーを活用し生徒の進路実現が図られたか。			
3	多様な生育歴・学習歴によって様々な課題を持ち、自分に自信が持てない生徒が多い。家庭との連携を図りながら、担任だけでなく全ての教職員が協力して、日常から生徒指導を行うことで、基本的生活習慣の確立を図り、自己肯定感を高めることが必要である。	あらゆる指導場面で醸成するとともに、基本的生活習慣の定着を図る。	①登校時の声掛け指導や駐車場見回りに取組、生徒への適時の指導を行う。 ②個人面談や家庭との連携に取り組む、基本的生活習慣の定着を図る。 ③心の悩みを持つ生徒へのスクールカウンセラーによる相談体制を整備。	①年間を通じて登校時の指導が継続して行えたか。 ②個人面談や家庭との連携に定期的に取り組めたか。 ③スクールカウンセラーによる相談体制を構築できたか。			
		生徒の自主性を発揮できる場を学校生活の中につくる。	①生徒の自主性を発揮できる場として、生徒会役員生徒へのきめ細かな指導・支援に取り組む。	①生徒会活動の活性化がすすめられたか。			
4	保護者・地域への情報発信を積極的に行い開かれた学校づくりに取り組み、保護者・地域の関係機関・支援組織とのより緊密な連携を図り、学校教育力の向上につなげる事が求められている。	保護者・地域に幅広く情報を発信する。	①「定時制だより」を通して、保護者・地域へ本校の情報を発信する。 ②ホームページの更新頻度を高め、定時制の教育活動を幅広く発信する。	①毎月「定時制だより」を発行し発行回数を増やせたか。 ②ホームページの更新回数を増加できたか。			
		保護者・地域の人材・機関との連携強化を図る。	①地域人材との連携を深め、必要な生徒への支援につなげる。 ②就労施設、特別支援拠点校、地域行政機関等との連携強化を図る。	①地域人材を活用できたか。 ②地域の機関・組織との連携強化を図れたか。			

学 校 関 係 者 評 価		
実施日	平成	年 月 日
学校関係者からの意見・要望・評価等		